

2024年1月 学校理事会

各部報告に対する質問事項

111全日

1. 第二回学校説明会（1/23）、入学説明会（1/31）：参加予定者数は？

学校説明会：オンラインで実施 参加希望はとっていない。入学説明会：現在7名あと2名の参加を予想している。

2. 第一回学校説明会（12/12）：参加者数、成果、改善点はあるか？

学校説明会：対面5名、オンライン10名、参加者数が少ないのは、学校への信頼度の高さを表していると考えます。それだけに責任は重い。保護者の理解を得るために実施して良かった。改善点は特になし。その年の必要性に応じて開催すれば良い。

3. 水泳教室は、最終的にラデラで開催と、新しい試みに感謝したい。以前のピアマリンの開催と比べて、良い点、悪い点、改善点等あればお知らせ頂きたい。

ラデラのプールは狭い。非常に深いところもあり、注意が必要。水泳教室には、余り適さない。学校に近い点は大変良い。

4. 教務主任から英語教員の時間増のNeeds、アンケートから英語学習の重要性が見て取れる。来年度の英語教育はどのように改善するのか、具体策を教えてください。補習校の日本語の習熟度別クラス編成等も導入しては如何か？

日本の教育課程の英語をネイティブコースと帰国コースに分ける。ネイティブコースの時間がこれまでより増えることになり、英語の苦手な子や日本の高校を受験する子は帰国コースに入って、日本の教育課程をそのまま学習する。

222補習校

1. 補習校授業の土曜日一本化は、限られた人的資源と、財務状況改善を目指す中、納得性の高い改善である。

→補習授業校の一般的な在り方は、「国語算数を基本とする」です。世界約250弱の補習校ですが、全ての補習授業校で国語を、70～80%で算数を指導しています。国語算数を開設している補習授業校では、受講者は国語算数ともに受講が通常です。

社会科を開講している補習校が少なからずみられます。また、ご承知とは思いますが、準全日制補習校は、社会理科も必須教科になっています。いずれにしても在校生がその全てを受講します。グアムのように国語だけ算数だけ受講という体制の補習校は、記憶の限りありません。また、算数の受講者が国語受講者の1/4という補習授業校も、私の知る限り皆無です。

これが私の感じた大きな違和感の一つです。

補習授業校としては、子どもたちに「教育の機会を増やす」ことに主眼を置いての措置です。(その緒として「夏休み特別学習」を組んでみましたが、残念ながら参加者が集まりませんでした。)

平日の保護者の送迎が難しいという理由で、受講できなかった子どもたちに土曜日にも算数数学の学習機会を与えられたことは良かったと考えます。これが、理事会の財務改善の一助にもなっているのであれば幸いです。併せて、平日にも、補充や演習、ドリル学習の補助授業の開設を構想していましたが、叶わないのが残念です。(小形)

他方、以前は平日の数学授業、習字教室等、全日の生徒が、放課後の活動として活用してきていた。

高い評価をいただき、ありがとうございます。(許)

現在、全日の生徒で平日の補習校の数学授業を受講している生徒はいるのか？

a. 6年生に一名います(許)

→いません。

算数のみ受講の児童が小学部6年で1名いますがこの児童は、全日の児童ではなく、現地校へ通学している児童です。(小形)

2. いるとすると、これらの方々への対応方法は？

- a. 具体的には今次の提案が承認された場合に平日放課後の運営を移管される President と事務局の判断となると考えます。以下に許の私見を述べます。
- b. 個人的には事務局の下で個別指導のプログラムを立ち上げ、平日放課後のニーズを拾うべきと考えています。
- c. 使う教材や進度について自由に保護者・生徒とカスタマイズした上で、得意な子どもが上の学年を先取りするために活用してもよし、遅れ気味の子どもの補習の時間としても活用してもよし、という姿が理想です。指導する方さえいれば科目も算数・数学にこだわる必要もないと考えています。
- d. 上記のような対応を取ることで補習校の算数数学の例えば2倍程度の授業料をいただいても納得性が得られるものと考えます（逆にそのくらいいただかないと先生の人件費もまかなえません）。
- e. 教材の一つとして日本の教科書も利用することで、引き続き外務省から教員の人件費への補助を引き出すことも検討するべきと考えます。(以上、許)

→全日の放課後に補習校でも学習することは可能です。これこそが、同一施設利用のメリットの一つであろうと考えます。こういった子どもがいれば、補習授業校としては、受け入れるべきと考えます。(小形)

3. 現地校に行くも、算数・数学のみを受講したい生徒がいた場合には、土曜日午後の数学の授業のみの受講は可能なのか？

- a. 具体的には今次の提案が承認された場合に土曜日の補習授業校を管轄する President と補習校校長の判断となると考えます。以下に許の私見を述べます。
- b. 結論を先に言うと「可能」とした方が短期的にはメリットがあると考えます。
- c. しかし個人的には、数年の移行期間を経たのち、午前・午後の6時間の授業をすべて受講することを前提に補習校への転入学を認める方が良いと考えます。
- d. 皆が6時間受講することになれば、午前に国語・午後に算数、にこだわらずにすみ時間割の自由度が上がります。

- e. また、朝同じ時間に登校したクラスの子どもたちの一部が午前で帰り、残りは午後まで残るとするのは、子どもたちにとっても、クラスを運営する担任の先生にとっても理想的な姿だとは考えられません。
- f. このため、算数・数学を選択科目とすることには長期的には反対の意見です。
- g. しかしながら来年度については、今次提案が承認されれば、午前に国語、午後に算数・数学を開講することはほぼ確定していますので、平日に通う学校が現地校なのか全日制なのかに関わらず、算数・数学のみの受講を認めることは可能ですしメリットもあることだと考えます。
- h. また、どうしても算数・数学のみを受講したい生徒については、上記の個別指導の枠組みで平日の放課後に学んでいただく選択肢を用意することで、学ぶ側のニーズをカバーできるものと考えます。（以上、許）

→もちろん可能です。先に述べた通り現在現地校通学で、平日算数のみ受講児童が1名います。土曜に開講となっても受講希望があれば、断る理由は全くありません。

補習授業校という制約(日本語力、学齢など)はありますが、子どもたちの「学習機会の保障拡大」が、私の最大の趣旨であり責務と考えています。併せて、「教育の質の確保向上」が補習授業校に課せられた課題と考えています。（小形）

### 333幼稚部

1. 現在年長の8人の日本人学校への進級は何人？来年度一クラス移行に際して、年中の入学見込みは何人ほどあるのか（現在8+8=16人、来年の見通し人数は？）

年長8名中、引越ししてしまうジオ君以外の7名が進学予定です。

現在の年中8名+入園説明会の問い合わせは今のところ4名（英語家庭2+中国語家庭2）です。（時任）

### 444事務局・会計

1. 12月までで9か月の月次決算、3/4が終了、75%進捗が目安だが、収支は88%と改善、他方支出は予算比58%（教育関連）、59%（一般管理）とこちらも大幅20%弱の改善を見ている。学校収支は、ざっくり月35Kの赤字が一般的と思われ、このまま1-3月が

推移すると、学校収支の黒字化も視野に入るが、収支改善の要因は？3月末までに想定されている大型支出はあるか？

収支改善の要因は授業料改定資料に記載されているとおりです。根本的に財務体質が改善したのではなく一時的な要因がほとんどになります。

3月末までに想定している支出は職員室の什器（椅子など）を想定しています。現在、見積もりを取得中です。（渡辺）

2. 今年ゼロベース予算を実施したが、3/4年経過の今、その長所、短所等見えてきたものはあるか？

収入、費用の各項目を毎月精査した結果、来年度予算の策定が従来以上に精緻化できると考えます。今期期初予算と実績がこれほど乖離している点は大きく反省すべきだと思います。過去にどのような予算管理を行ってきたかは不明ですが、長い期間赤字が継続してきた学校においては適切な予算コントロールと、関係者との共有は非常に大事だと考えます。（渡辺）